

行政視察等報告書

平成29年 3月31日

境港市議会
議長 岡空 研二 様

会派名 きょうどう
代表者 米村 一三



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	平成29年2月16日（木）～平成29年2月17日（金）
2 視察等先 及び内容	平成29年2月16日（木） 大阪府大阪狭山市 大阪狭山市役所 ①まちづくり円卓会議事業について 平成29年2月17日（金） 兵庫県神戸市中央区 人と防災未来センター ②セミナー&ワークショップ 「共助の備えの進め方～高めよう、わが街・地域の共助力」
3 視察等議員	浜田 佳尚
4 総経費	合計（1名） 35,210円 （一人当たり 35,210円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所見等	別紙のとおり

内 容：①「まちづくり円卓会議事業について」

報告者：浜田佳尚

所見等：

「まちづくり円卓会議」設立までの背景

大阪狭山市は、多くの市民に身近なところからまちづくりに主体的にかかわる市民自治への契機づくりの場として、地域内の自治会や住宅会、NPO、市民活動団体、事業者などが中学校区を単位として、自主的に一堂に会してまちづくりについて話し合う場である『まちづくり円卓会議』制度を創設。現在、3つの中学校区（南中学校区、第三中学校区、狭山中学校区）で、地域のニーズに即した事業の選択及び提案などによる地域内コミュニティの醸成、地域内で活動する各種団体の連携による「地域のことは地域で考える」を実践している。

まちづくり円卓会議は平成19年4月吉田市長2期目のマニフェストが発端となった。大阪狭山市では昭和42年からニュータウン開発が進み、その世代が高齢化。高齢化率が著しく高い現状にあるとのこと。中学校区単位の設立は全国的に珍しいが、これは小学校区では人口に地域差が大きい。防災・防犯は広域であることが有効、アイデアや人材確保のスケートメリットが理由としてある。

円卓会議設置の目的としては大きく

1. 市民自治への契機づくり
2. より市民ニーズに即した事業提案
3. 地域内コミュニティの醸成や市民協働の推進
4. 地域内で活動する各種団体の連携促進

の4つがあげられる。

各中学校区の事業提案により予算化した事例として、地域の人たちが気軽に立寄り、お茶を飲みながら情報交換や高齢者の生きがいづくりの場として、毎週火曜日から土曜日午後に開設する「コミュニティカフェ事業」や地域内の歩道にある街路樹の枡を事前調査し、花壇の材料となる木材や土、肥料などを市で購入し、地域の皆さんで花壇柵を製作、設置し、季節の草花を植える「花いっぱい運動」などがある。

防犯・防災事業としては、防犯みまわりワッペン「みまわり君」の作成や、週2回の防犯パトロールを実施されています。週2回の防犯パトロールのうち、週1回は部会員の自家用車で実施し、他の1回は市職員が運転する市の公用車である青色防犯パトロールカーを活用した協働のパトロールを実施している。

これまで自治会を中心にして地域が回ってきた。そして、自治防災などの重要性が高まる中、益々その責任・負担は大きくなっているといえる。一方で自治会加入者の高齢化や、加入率の伸び悩みといった課題がある中、もっと大きな地域の枠

でチームを組む大阪狭山市のまちづくり円卓会議はコミュニティの形としての今後の一つの方向性である。境港市においても地域課題の解決方法のアイデアの一つとして研究する価値のある取り組みであると考えます。

内 容：②「共助の備えの進め方～高めよう、わが街・地域の共助力」

報告者：浜田佳尚

所見等：

一部のセミナーでは、様々な防災に関する受賞やメディアに取り上げられてきた「加古川グリーンシティ防災会」の会長 大西賞典さんを講師に迎え、加古川グリーンシティ防災会がこれまで取り組んできたことから、「共助」というテーマに関わりがあったことを中心に時系列で整理して紹介していただいた。

大西さん曰く、そもそも「共助」とは「共に助け合う」ことなのか「共に助かる」ことなのか、まだ答えは見つかっていないがこれまでの経験から「共に助かる」ことが共助であると考えているとのことがあった。つまり自助（自分・家族・大切な人を助ける、助かる）あってこそその共助であるということである。

また、大西さんは楽しくなければ防災の輪は広がらない。防災の為の防災活動は続かないと断言されていた。例えば地域で避難訓練を行っても、その後すぐに解散していたら意味が無く、そのあとの懇親会・交流会を行う事で楽しくお互いの顔の見える関係作りが出来る。それが一番の防災だと話された。

実際、加古川グリーンシティでは、餅つき大会や、週末の持ち寄り飲み会、ゴルフ部の創設等、多彩なアイデアで仲間づくりに成功し、マンション7棟・584世帯の全住民（約2,000名）が、子どもからお年寄りまで参加する防災組織となった。

その他、連絡体制の整備や防災井戸設置など、地域防災力の向上、防災意識の普及活動を行っている。住民の防災に対する意識向上がなされていた。

現在、境港市でも様々な自治会において自主防災組織が存在しているが、防災といわれても何をすればいいのかわからず機能していない団体や、防災だけにかたよった訓練をしてしまっているようなことはないだろうか。防災とは、日頃の挨拶運動から始め、地域の連携を強化し、お互いの顔が見えて名前がわかる関係作りなくして防災活動は行えないのだと再認識させられた。

二部のワークショップでは参加者がグループに分かれ、様々なテーマの書かれたカードを一枚ずつ「自分の自治会・防災会ではこんな活動をしている」「こんなとき自分ならこうする」といった活動報告・情報共有や被災時のシミュレーション等をお題にグループディスカッションを行った。